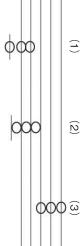
10. 和音に種類あり

(1) 元気のいい(明るい)

(2) さびしい

(3) 不安定



11. 和音を覚えると、どの位のことが出来るか

○ハホトを(覚える)ことによってハホト以外の音を知ることが出来

○ハホトを覚えることによって、いろいろな曲を教へることが出来

○音から音へつながって行く気持を与へるのが音楽だ。ただ記憶させ

○和音の単純なのが単純な音楽だ。

○終止符―音楽としての思想をもたぬ、ごく短いものにあつめた音楽

―――。和音の中の音を出させて簡単に出来ると、合唱が簡単に出

─―衸各) ○発声がむりをしてゐると、うまく調和しない。(実際指導を受ける

○歌はないから優秀な国民であるとはいわれない。

○音楽の形式・作曲に入る基礎を与へるのである。

三、課長講評

至十三時十分

○二日間女先生が陣頭に立ち、研究授業をし、それぞれ反省し、自己

ことは、平素の授業の力を示したものと考へる。くひ入って、しかもそれが、その学習を喜んでつづけてゐるといふをみがくべき点をたくさんうけたわけであるが、子供の心に先生が

先生とも、進め方に型にはまったところがあった。○学校中が援農その他に於て相当歩調を一に出来ぬといふこと有、二

けると同時に研鑽されたい。
ければみられないといふ雰囲気が醸成されるやう、子供の学力をう○子供の力、先生の力のかち合ふ点に於て、この先生、この子供でな

は誠に有難かった。○遙々千葉先生が参って、われわれの平素心配してゐた点について、

○今後の平和産業に設けられる機械を扱ふ者が、子供時より耳の訓練

に、力強くまちがひなく進んでほしい。○どこまでも国民学校の本旨に則り、今後の指示されるものに、方向

れ。 率的に進めるにはどうするかを、研究会の衝に当たる人は考へてく率的に進めるにはどうするかを、研究会の衝に当たる人は考へてくるものを犠牲にしても当面の事に直進すべきである。将来、最も能○遺憾の点は、最後に於て前の机の空いてゐたことである。あらゆ

意気で、大いにがんばって欲しい。○敗戦を一契機として、世界に、日本の文化をおほひかぶせるといふ

○明後日よりの教壇に本研の収穫を充分に発揮されんことを望む。

がない。

- ○とかく感情を含める。
- ◎われわれの気持を全世界に伝へる先駆として、音楽がよい。
- ◎戦争中進歩してゐた国民学校の音楽を将来どうするか。即ち、学校 音楽をして西洋、日本、社会 音楽に関心をもつやうに致したい。
- 3 本日の授業について(講評)
- ○効果はその人の実力から生ずるのである。
- ○分散和音唱の律動がむつかしくて子供がうたへなかったやうだが、 いろいろに、易→難へと、順次に進めて行くべきだと思
- ○教授者は落着いて、あがっゐた。―窓外の雀の声がきこえなかった
- ○コトバをつけて歌ふ場合は、 子としての流れがみえてゐればよい。 あまり強弱をつけてはいけない。四拍
- ○休止符の短くなるのは惰力がついて速くなるからである。これを除 かねばならぬ。
- ○和音教育は初一だけでなく、いつでも、拡声器によって、各教室一 せいに指導するといふ方法もある。
- ○レコードの鑑賞はときどきさせる。
- ○歌詞の取扱ひは、一番があれだけ出来るのだから、二番までやって よかったのではないかと思ふ。
- ○教材の選択は必修教材が掲げられてゐるが、戦争に関係のあるもの は避けるがよい。
- 4. 律動感について、
- ○拍子が同じでも律動がちがふ。

- 5 速度感について
- ○耳から歌をきく如く入る―音によって与へることが大事だ。
- 最低限度の音楽教授

6.

- ○単音でひけること
- ○両手で和音をひけること「だけでよい。
- 教師自身の和音感の独習法

7.

- ○ピアノがよい。レコードも必要ならん。 ○差当り必要なものは、五線の黒板。無い時は・・・を使ふ。
- 音感教育の現状と将来
- 8 ○和音を多く記憶させようとするのがそれである。
- ○音の記憶は相対的でよい
- ○ほんたうの耳をつくる為には、音楽の程度を高める行き方でなけれ ばならぬ。
- ○高める為にはどうすればよいか・・・ハホトならハホトを確実に教へる こと.即ち、簡単なことを確実にやるといふこと也
- ○将来の音感教育は、音楽教育のある一部をなして行く。
- (ほんたうの耳 ―音の律動: を知る耳) 高低: 和音弁別: 強弱<遠近>その他―
- 9 詩と曲について
- ○ドイツの行き方(山田耕筰の曲)、 抑揚と音を同じやうにする―
- ○律動から頭をつかんだ曲。

すれ

よってかいていゐる。「アサノウタウタフ」は日本風です。 千葉(日) この歌は特徴がある。即ち、日本的旋律をセイヨウの楽式に

二、講演と講評

第一師範学校教官 千葉日出成氏

至卜三寺 自十時二十分

「文化日本建設にスタートする音楽教育を如何にするか」至十三時

でやるそれも亦かかる見方でみられてゐる。の問題として取扱ひ、娯楽として、娯楽機関の一としてみてゐた。学校の問題と戦後に於て、日本では音楽を如何にみてゐたかといふと、趣味

○戦争に於て社会音楽は如何になって行ったかといふと、戦時音楽の戦争に於て社会音楽は如何になったといふのが多数であった。つまり、悲壮でに野卑であり、さびしいといふのが多数であった。つまり、悲壮でと変り、詞(詩)の方は、りっぱなものが出来てゐるが曲は、相当と、戦争に於て社会音楽は如何になって行ったかといふと、戦時音楽

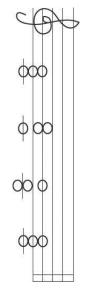
を生んでゐるが、之は後述する。めに、曲に対する統制をしなかったからである。これ、今日の幸い○国家が何故それを一掃しなかったかといふに、それは耳が・・・・・

- ○戦争の為に社会一般音楽は劣等になつた。
- 〜をどう考へるか、考へて行くか、といふ反省をする要あり。○かが国には、わが国のすばらしい音楽があると誇ってゐたが・・・これ
- 雑である故なり。)
 ○理論の伴はぬ音楽には進歩なし。日本の音楽には理論がない。

る。
に、日本音楽を世界音楽ならしめる―この基礎を国民学校でやるのであに、日本音楽を世界音楽ならしめる―この基礎を国民学校でやるのであ形式・構成等、外人には不満足である。之を彼らにも感動させ得るやう

2. 国民学校の音楽

除いたが、)曲は判らぬから、欧米の基礎に立つことを許可した。──本的なものとしたが、当局者に耳のない故(先述す)に(詞はとり○戦争によって、あらゆる文化から欧米的なものを全部とり除き、日



洋風に流れないことを期した。いてやり乍ら、一方に於て(旋律に於て)日本的なものを加へ、西即ち、西洋の基礎に国民学校の音楽を出発させた。之を一方に於

☆らな。 一方に於て日本音楽 } を研究し、日本音楽を世界音楽としなければ○一方に於て西洋音楽 } を研究し、日本音楽を世界音楽としなければ

○かかる意味に於て、戦争中、国民学校の音楽はぐんぐん進歩した。

- ○音高の記憶については相対的でもよいとした。
- ○和音のちがひをはっきりとした。
- ○二元的教授を、一元的にしようと考へてゐた。

◎音楽の批評の態度

(複

○ある方面の形式にあてはめやうとする~政に芸術方面の発展、進歩

に指導してゐるか

いつも立たせて指導してゐる

上 レコードの観賞はふだんしてゐるか

してゐません

畑中 蓄音器がないのです。電蓄は大きくてうまくないのです

上田 (浦幌) は学校放送可能となる故、各教室できけるやうになる 従来は警報の為スイッチを入れっぱなしであったが、

岩田 (活平) 「歌」の筆順は 可 J H か 1 ¤

わかりません

上 国民学校は音名視唱なるも、われわれは、 旧 来の教育によ

最後のむづかしいところは音階となるが…

千葉日 出成講師 はじめはゆっくりやり、 ○移動 (ド) は音楽の勉強が早く上達する。 生徒にうたはせ、だんだん速くする。こ

ない者は、移をさせてよいわけである。 れをいつもやってゐると、〇…おぼえる。四年位になって記憶し

山田 (常盤) 四年以上が階名視唱差支へなしといふのは、救済の意味か

千葉 <u>日</u> 一つはそれになるわけである

上田 橋中佐~子供がよく出来ぬとき、

音階名唱法としてよいと教師用 書にある。

山田 逆戻りするね。返ることはないか

<u>目</u> 音といふことになると、音名の方がずっと便利 目的がちがふのだ。旋律を覚えるにはドレミハがよいが、 和·

事をしっかりやっておけばよい。 ないと我々でも困るのだ。然し初等科一年から音名でやって行け 要するに、固定式ドレミファにすればよかった。小さい時からし 初回から視唱出来得るのでないかと思ふ。 要するに基礎工

ならぬといふことになるのだと思ふが、それでも方法を限定した 日本は転校が多い。それで初四まではどうしても音名でやらねば

ことは進歩を鈍らすといふことになるのだと思ふ

山田 伴奏をひいたことに満腔の敬意を表す。

昨日、 今日と、 特設授業は二人共女であったが一つもあはてる態

度なきは、りっぱであったと思ふ。

うだが如何。尚このまちがひは、 ぼえてゐる故かと思ふ。 気づき「ゴキゲンイカガ」のところは最後まで気づかなかったや 意がなかった。即ち、「アラヒマセウ」のまちがひを最後に於て 「キレイ」の「イ」に神経的であった故に、子供の旋律の把捉に注 前に習ったものをきっ〔ママ〕お

河野 女子の方はわかりませんでした。

山田 旋律の把捉は一時間目に於て大事だと思ふ

岩佐 二節を全然とりあつかはなかったのは如何

河野 二時間目にやると思ったからです。

岩佐 そこにあるのだから(二番目にも朝の歌の気分が入ってゐるのだ

から)取扱ふべきがよいと思ふ。

岩佐 音楽の授業は女の先生がよいやうですね。声がきれいでね

伏見 そうですね。

山田 くしてゐるが、新しい傾向か、教育的にみてどうか (千葉講師に) コロムビヤのレコードは二番目のをしまひをおそ

千葉 $\widehat{\underline{\mathbb{H}}}$ 子供の芸術心をこはすやうにならなければ…

山田 不思議ですね。

千葉 $\widehat{\mathbb{H}}$ しかし、子供の気持に逆ふやうであればどうかと思ふ 古典音楽は一番最後は、 おそくする約束になってゐるが…

コロムビヤは文部省認定か。認定はテイチクだけだと思ふ。又、

上田 速さはちがはぬ。

千葉 山 田 (日 うたのほん(下)では之が白眉ではないか。 て歌はねばならずむづかしい。 唱歌の先生は、芸術的に相当の才能を持ち乍らも子供になっ 子供には感情が単純なほどよい。 雨といふのもよいで

○詰襟でなく折襟にせ と彼らは言ってゐる。要するに、戦斗帽子、 民服、 ど敵愾心旺盛で残虐である。 うと思ふが故に、さうしたいと思ふ。 ゲートル、ざんぎりは、 文化的、 彼らが非常に恐れ、 非文化的とは別に、 具 歴戦の者ほ 早く帰さ 玉

伏見 日本人の服装のだらしないこと、文明程度の低いことに彼らは驚 いたといふ。お互ひにつつしむべきであると思ふ。

岩佐 彼らに対する男子の態度~道路に於てすれちがったとき、 礼をす

べきか

課長

必要なし。但し用をもって来た時は、

すべきであらう。

国民学校の児童にどの程度にアルファベットを課すべきか (顛末

等を見る必要上

課長 課外で教へるべきだらう。

文部省制定のものは如何

課長 それは高等科の商業に出てゐたが…

伏見 四大節、国旗掲揚については、指示あるまでは従前通りで差支へ

ないとのことである。

塚田 公衆道徳といふことを反省してみるに、 且それが誤られたのではないかと思ふ。例へば列車中に於て 礼儀の教育がやかまし

課長 積極的な悪習―人を押しのけて後から来る

寝てゐる者を起すことが出来ないといふやうな…

社会的な制裁が不足してゐるからではないか 消極的な悪習―寝てゐる者を起せない―の両面がある。

塚田

山田 対一といふ関係を意識するからだらう

課長 人のあやまちに注意をしないのが日本人の欠点なり

塚田 あまりに国体的に指導者居て動かしたといふ教育の部面が悪かっ 故にその圧力がとれると乱れる。

(民衆教育) が必要である

伏見 岩田 礼の問題について~精神的ないいうるほいがなくなった。

職業的に見なすからだと思ふ

課長 父兄と先生との間にどちらが先に礼をするといふことはない。従 所謂指導者層は頭が高すぎた。いままでの教育者の考へ方に

熊谷 常会等に於て教育上困るやうな場合、 としての立場から厳としてやるべきか 於て変へなければならないこと多分に有。 あたらずさはらずか、 職員

課長 健全なる判断をするべきだ。

以上。

第二日 (十月六日) 浦幌国民学校

授業ニ対スル懇談

1 会長挨拶

2 授業に関する説明 河野訓

○音楽の授業ははじめてである

○指導案の通り指導をすすめた

○指導案の6歌唱は練習の誤り。 尚、 字が粗末で見にくいことを謝す

質疑懇談

河野 千葉 (浦幌) (上浦幌) 授業の二、三時間目に音名唱でしてゐます 視唱の練習は如何にしてゐるか

千葉 上 強弱について、 生徒の歌ひ方が、 先生の考へ通りにあらは

河野 その通り思ひます

てゐなかったのでないか

先生を

千葉 上 休止符が短くなるんでないかと思ふが。 ふだんも今日のやう

ふことは、世界歴史上にないであらう。

○一億玉砕し、敵を一億たふす・・・・この際、この戦争を中止するか、 られる。 の精鋭と一万の飛行機を擁して)使われたのが 継続するかといふ、世界平和の鍵を握られ、それをあの際 かかる戦争の終結の仕方は、 新しく世界の問題となるであ 天皇陛下であらせ (五百万

新日本建設の指標と国民教育

○真の平和は互ひの国の特性を認め合った上に於てでなければ出来 れるのである。 互ひの民族の個性を尊重し合って始めて〔ママ〕平和がつづけら

○民主主義的な考へ方により、民の声を聞いたならば、 ○結局令第一条をもって、教育勅語により教育をしてゆく といふこ ら、)皇室中心であり、 育者はまじめにやって来た、それに教育された青年、大人であるか 国体護持といふことになるであらう。 (日本の教

とになる。

(2)国内の秩序 (法令・経済・風紀) 維持

○日本的な秩序をあくまでも保持し、発展するように力をつくせ。 ○公衆道徳といふことが、 日本は実に低下してゐる。これの教育をし

(3)平和産業

つかりやるべきである。

○平和産業的なものを対象として教育して行かねばならぬ

「勤労」が大きな教育目標となるであらう。

(4)衣食住の日本文化の顕揚

○これが教育の対象にどんどんとり上げられるべきだ。

○まだまだ世界各国に比べて遜色あり。

るやうである。 であるが、われわれの胸の中に考へて、わりきれなかったものが解決され 以上、日本の教育学者 (石山脩平教授) が述べた将来の日本教育の私見

み、健全なる常識を以てよみとるべきである。 日本人の指標を与へやうとしてゐる。よく読み、 毎日の新聞が敗戦といふ冷厳なる自覚を与えて来てゐるやうだ。新聞は あくまでもその中心をの

三、 座談会

伏見会長

○「終戦後に於ける教育の行き方」を主題に話し合ってほしい。

○北大で挙手答礼を廃止したが、国民校に於ては如何にすべきか。

課長

○日本古来の禮に戻るべきだらう。 ○平素はゲートルをはかなくてもよい。

乗馬スボンは如何

課長 いいです。

田尾 頭の毛をのばすのは文化的は非文化的か

○私、それを考へていないが る。 と同じでは折衝などの際に損をすると思ふ・・・)のばさうと思ってゐ (アメリカの罪人はざんぎり頭で、それ

至十五時四十分

自十五時

五分

低学年は簡単な暗算で能力をあげる。高学年は必ず概算をやらせて、日本人の数的判断の逡巡性を捨ててしまはねばならぬ。

まり概算をしてゐないからだ。七五mとかいてゐるが、これは計算に追はれて迷ってまちがふ。つて欲しい。青学の学力調査等に於て七五円とかくべきを七五戋とか低学年は簡単な暗算で能力をあげる。高学年は必ず概算をやらせ

○私自身、数が大きくなるとはっきりした言ひ表し方が出来なくな

業の対象とするのはけっかうであった。○「さやうなら」をして、子供が教室を出て行くまでを授まり、相手が居なくても礼儀である。従って、帰るところまでを授法は、他家の玄関の戸をあけたときから、帰りも出てからまで、つは、日本的の美しさを現してよかった。日本の礼儀作してやうなら」をして、子供が教室を出て行くまでを授業の対象と

| 教へるときは、数へるべきなり。 ○吉川先生は、カタカナの「ヲ」を、**フ**ーとかいたが、一フと、子供に

て下さい。年で本日の授業はりっぱであると思ふ。今後ますますしっかりやっの以上、感じたままを率直に言ったのであるが、教壇に立って一、二

4、講演概要

新日本建設の指標と国民教育

一、戦争終結の客観的必然性

(1)物量の不足

○国民は最後まで必勝を確信してゐた。これは指導者の指導のりっぱの国民は最後まで必勝を確信してゐた。これは指導者の指導のりっぱ

○敵が本土上陸をすれば何とかなるであらうが、一年間空爆をつづけ

の都市がやられれば国民が一人も居なくなる。られたら何物も残らぬであらうし、最後に原子爆弾によって大部分

(海、陸、空、針葉油等について数的に説明あり)

○物を誇るアメリカに対抗し得ず、物に屈したのである。

(2)外交上の失敗

回もなかった。これ、外交の完全な失敗なり○和平交渉をしてゐたが、好意的な中立・斡旋をしてくれる国が一ヶ

○かつての敵ロシヤに最後になって頼み、日本の腰折れしたるを外国

られない数である。 あった故に中途に終戦した。これは、日本人の心が小さく外国に容めった故に中途に終戦した。これは、日本人の心が小さく外国に容が結局、日本に好意をもつ国が一国もなく、壊滅を希ってゐた国が

(3)科学者の敗北

作った。(アメリカは五年間、十二万人を使ひ二十億弗〔\$〕を費し原子爆弾を

大段助手一人が真剣に研究してゐたにすぎなかった。日本は、ウラニウムの発明をきいてもゐたが新武器としての研究は

○結局、学者の独善的なものがかかる結果になったのである。

2、戦争終結の日本的特徴

(1)国体の保持

での世界歴史にない。○無条件降伏をして、国体を保持し、終末をしたといふことは、今ま

(2)国家の保全

○無条件降伏をしながら、日本の中核となるべき領土が残されたとい

伏見 日本は将来 立憲君主国となるか如何

る返事に国体政体について明示してゐない 天皇陛下はその通りおっしゃってゐる。ポツダム宣言受諾に対す

こう引きないにいいのの。国内の秩序維持が我々としては現状として最も急務であって、ス

国体護持、立憲君主主体を継続し得る如く努力すべきである

キを見せないことである。

谷 その筋の御命令のない限り今までの信念をもってあたってよいか

、 いいでせう。殊更にまさつしないよう、常識を以てやる。

他にくらべ充分と思ふ。われわれの不足してゐる常識は経済的のことで、その他に於ては

きたかといふこと等、はっきり勉強しなければならない民主主義といふことが日本歴史の上に於てどういふ風に発展して

塚田 官庁の指示等に於て割引しなければならぬことがあるのではない

カ

課長 (長官の言明 ―学校長その他に対する― を説明す)

但し統計等はそのやうなことはなひ

塚田 ほんたうに思想を保って行く者はわれわれではないか。

のであらう。民主主義的なるものにしてしまはうとしてゐる。 区 その通り。思想政治犯の釈放により、国内は喧々ごうごうたるも

二、課長講演及講評(授業ニ対スル)

至十五時三十分

1 、 講評

の行くべき道には神武天皇の御弓の先に止った金鵄の光がみえる。○悲哀にみちた空気の中、教育の前途暗澹たるものある中、われわれ

表する次第である。くべき道を語り合ひ、ここに村研がひらかれたことに対して敬意をしかし、行くべき方向に迷ひ村研等を延期した處あるも、我々の行

るのはけっかうである。○当校の朝会については先程の質問にもあったが、答礼的に考へてほ○当校の朝会については先程の質問にもあったが、答礼的に考へてほ

○公開授業に就て―粉炭をだんごにするといふようなことについて○公開授業に就て―粉炭をだんごにするといふようなことに就て―粉炭をだんごにするといふようなことについて

ことであらう。 ○特設授業に就て―先程から話し合って授業もいろいろと反省された

ゐる。 算数的能力を与へる作業であるからである。と、このやうに考へて増減であれば全部が赤であり、青くある方が妥当である。それは、

生の学習熱心はみてやらねばならぬ。日尚浅きにも拘わらず、よく○授業取扱の内容であるが、間接授業中の一年生の作業熱心と、二年

但、姿勢がとても悪い。明日より正してくれるここまで躾けたことはよい。

たい。 進駐軍に第一におされるのは姿勢と動作である相である。留意され

○暗算をやったことはよい。三年頃までは適当な時期にどしどしやっ

塚田 どうもはっきりしない

伊藤 (教師用書 「数の構成」について朗読

構成は分解総合で増減は加減を意味していると思ふ

平岡 構成の意味からして本日の授業は、 版等も利用して、 もっと生活態度からをりこんだ授業をしたら あまり上べすぎたと思ふ。小

よいと思ふ

○理数科算数であるから、花などを与へ自由に取扱はせて、 たせ、 数観念に入らしむがよいと思ふ 興味をも

○まちがってゐてもよい、 である、さうしてそのうちに数の構成、 できなくてもよい、要は究明するにあるの 分解ができる

○78-18=60と書いたが 78 - 18 一60 とかくべきだ

○答へを求めることに性急ではいけない。将来のびる余地に着目して 授業をすべきである。故に、 であるべきだ。 深い生活といふものをおりこんだもの

岩佐 (留真) 二年生は柿を知ってゐるか。

伊藤 繪などで知ってゐるだらう。

事実問題(生活)として、校庭の清掃等に於て石を数へしめると

いふやうなことをしてゐる。

平岡 本日の算式 (78-18=60) はよい。 「ヒク」かをはっきりさせよ。又、教科書のさしゑを大切にとり 「タス」「ヒク」に於て、

山田 (常盤) ひき方、まとめてひかしたのには何か考へがあったのでは

あつかふべきだ。

吉川 生徒が発表したからです

山田 暗算はいつも聴暗算か

聴をさせてゐます

Ш 田 於て困るのではないか 視暗算を主としたらよいと思ふ。紫と青を混じてゐたが、

図

画に

教師用書に青と書いてあります

山田

田村スエ

るのではないか。 「この問題の答えなんぼ」ときいてから指名までの時間が長すぎ

答えのまちがった時は、子供にも発見させるべきではないか

塚田 平岡、 構成の教師用朗読解説す。 熊谷間に構成、 増減について若干の問答あり。 伊藤、 増

岩佐 朝礼に於て生徒が「お早うございます」と言ったのに対し、 がだまってゐたがいつもさうか。

要求する正しい礼儀であり、且、それによって訓育されるのであ 自分は、ことばを返すべきでないかと思ってゐる。それが生徒に ると思ふ。

伊藤 今までの習慣通りやってゐる

田尾 数図表、計数器等準備してゐるか

吉川 してゐます

塚田 国民的信念、教育的信念を正々堂々とやれない場合があり、 地下

教育をしようと思ふが・・・・

伊 藤 私もまいってゐる。声を大にすべきか、 家庭に於てやってもらふべきか、上からの明示あるまで待ってゐ 地下運動が妥当なりや、

塚田 われわれの信念はまちがひないと思ふが

る…

伊藤 まちがひないと確信してゐるが、 口に出しては如何と思ってゐる

塚田 五ヶ条ご誓文、十七条の憲法、 がひないと思ふが 神武天皇の勅等に於てみても、

伊藤 学校或は家庭に於て伝えないと将来どうなるかと思

Ш 下運動はやらねばならぬと思ふが如何 アメリカ色を一切すてるといふ考へ方は捨てねばならぬ、 が、 地

Ш

昭和二十年度浦幌村教育研究会記録

第一日(十月五日) 常室国民学校

出席人員 〔空白〕

一、授業ニ対スル懇談

至十三寺<u>四</u>十子 自十二時三十分

1、学校経営説明概要 伊藤校長

○勤労第一で邁進して来た。終戦後も、勅書を奉戴し、勤労第一を以

○赴任後日浅く、且援農に出動してゐたので校舎内外に手をつけてゐ

ない。

示願ひたい○上常室分教場の先生が退職して居ないが、単級の教育について御教

2、特設授業ニ関スル説明 吉川訓導

○一年の教材が一月おくれてゐる。

○二年は二教材を一しよにして時間配当をした。

○計算練習の上から四行までは暗算でしなければならないが機会毎に

してゐるから帳面にさせた。

○事実問題の先に暗算をすべきであったが、その要なしと認めて逆に

○児童の暗算能力は不充分である。

3、質疑懇談

岩田(活平)今日の算数のよみかたのアクセントは、国語のよみかたの

アクセントか

伊藤(常室)私も赴任以来、なほさうなほさうと思ってゐるがなほりき

らず困つてゐる

何にしてゐるか千葉(上浦幌) 少年団、更に学徒隊の解消した現状に於て校外指導を如

伊藤(常室)戦争前に戻ってやってゆきたいと思ってゐる

伊藤 現在手をつけてゐない。新聞には、大体の方針が出てゐたや、千葉(上浦幌) 校下男女青年に対する指導をどの面に於てしてゐるか

あるが。とに角、解散はしてゐるが仕事はそのまま継続してやっ現在手をつけてゐない。新聞には、大体の方針が出てゐたやうで

てゐる

教育課長 青年団に関しては青年学校長が村内全体の指導について計画をの御意向は如何 の御意向は如何 にないでは各校共、行悩みの態なるも、支庁当局

松平(青校長) 学徒隊解散後は報国団で進めといふ指示あり、その形でたててゐる筈である

進んでゐる 松平(青校長) 学徒隊解散後は韩国団で進めといふ指示あり、そのE

熊谷 祭典等に於て青年の活躍が主体の不明瞭な為不充分であった

松平(前項類似の答弁をする)

に、青年団に就ての問答あり。 尚、以下 平岡(川流布)、松平、塚田(炭砿)、伏見(浦幌)間

平岡(川流布) 一年の算数、「朝顔とトンボ」教科書としての取扱ひは

吉川(常室)はい、

ではっきりしないがどんなものか 塚田(炭砿) 「数の構成」「数の増減」とあるが教へる場合に同じやう

平岡本筆のところは数の構成、分解とある。

育の精神的継続性が強調されている。いる。ここでも「国民学校の本旨に則った教育」が説かれており、戦時教第二日目の最後に再び教育課長の講評があり、二日間の総括が行われて

【資料の意義】

談会での各教員の発言から読み取る事ができる。民学校教育の考え方が、いかに現場に深く定着していたのかを、質疑や座家主義的な教育を目的に再編成されたものであった。皇国史観に基づく国もともと国民学校は、日中戦争後に従来の尋常小学校などから、より国

なる。 結局…〔これからも〕教育勅語により教育をしてゆく といふことにであるから、皇室中心であり、国体護持といふことになるであらう。…日本の教育者はまじめにやって来た、それに教育された青年、大人

かび上がる。
かび上がる。
いうくだりがあり、さらにこの前後の文脈において、「われわれは信というくだりがあり、さらにこの前後の文脈において、「われわれは信というくだりがあり、さらにこの前後の文脈において、「われわれは信というくだりがあり、さらにこの前後の文脈において、「われわれは信というくだりがあり、さらにこの前後の文脈において、「われわれは信というくだりがあり、さらにこの前後の文脈において、「われわれは信というくだりがあり、さらにこの前後の文脈において、「われわれは信というくだりがあり、さらにこの前後の文脈において、「われわれは信というくだりがあり、さらにこの前後の文脈において、「われわれは信というくだりがあり、さらにこの前後の文脈において、「われわれは信というくだりがあり、さらにこの前後の文脈において、「われわれは信というくだりがあり、

を加える事も必要である。

興味深い資料と考えられる事から、今後、教育方法論的な視点からの検討音楽がとりあげられているが、教科教育の技術論の時代的変遷知る上でも事ができる、貴重な歴史資料と言う事ができよう。また、ここでは算数や事ができる、貴重な歴史資料と言う事ができよう。また、ここでは算数や本資料は、そうした激動の時代における学校現場の様子をうかがい知る

開催された合同古書市(オビヒロ藤丸古書のまち)に、札幌市内の古書店当資料は二〇一四(平成二十六)年六月に帯広市の藤丸百貨店を会場に

館へ収蔵する。る。今後、公共の調査研究資料として保存・活用するため、浦幌町立博物のののでのでは、公共の調査研究資料として保存・活用するため、浦幌町立博物のでが、

(昭和十九)年八月十五日に化学実験中の事故で亡くなった大段政春氏のこと。当高周波絶縁材の製造実験を実施していたところ、イソブチレンが液体酸素に漏れて引火し、爆発したとされる(村上謙吉二〇〇八「太平洋戦争とゴム研究について」『日火し、爆発したとされる(村上謙吉二〇〇八「太平洋戦争とゴム研究について」『日火し、爆発したとされる(村上謙吉二〇〇八「太平洋戦争とゴム研究について」『日火し、爆発したとされる(村上謙吉二〇〇八「太平洋戦争とゴム研究について」『日火し、爆発したとされる(村上謙吉二〇〇八「太平洋戦争とゴム研究について」『日火し、爆発したとされる(村上謙吉二〇〇八「太平洋戦争とゴム研究に従事していた。この教育課長の発言も、大段助手が原子爆弾のプルトニウム研究に従事していた。この教育課長の発言も、大段助手が原子爆弾のプルトニウム研究に従事していたと誤解している。

ては原則原文のままとした。編集上付記した事項については〔 〕内に記した。(判例)翻刻にあたり、旧漢字は現代漢字に改めた。仮名づかいや句読点の位置につい

出成氏の名は、 国民学校教員以外の出席者として、 「日出城」氏の誤記と推察される。 左の三名の名がある。 なお、 千葉日

- 氏名不明 (十勝支庁教育課長)
- 松平(青年学校長)
- 千葉日出成 (北海道第一師範学校教授)

から十五時四十分までである。 (授業ニ対スル) 」「座談会」で、二つの内容を含めて午後十二時三十分 記録は第一日目 日目の内容は「一、授業ニ対スル懇談」 (十月五日) と第二日目 (十月六日) =課長講演及講評」 に分けられる。

午前中で終了したものと思われる。 課長講評」となっている。第二日目の開始時間が記録されていないが、 第二日目の内容は「一、授業ニ対スル懇談」 講演と講評」が「十時二十分から十三時」となっており、おおむね 「二、講演と講評」「三、

話が中座している。 は今後どうするのか?これまでの教育信念はどうなるのか?などの議論に 日目は算数、第二日目は音楽の研究授業を実施したものと推察され て参加者全体で意見交換をするというものである。記録の内容から、 もっとも、第一日目は算数に関する内容となっているが、途中で青年団 「授業ニ対スル懇談」は、国民学校訓導一名が授業を行い、これに対し

演が行われている。 育課長の講評があり、 第一日目の「課長講演及講評」は、 続いて「新日本建設の指標と国民教育」と題した講 前半に研究授業に対する十勝支庁教

軍)による占領政策、 ものである。終戦詔勅から二ヶ月という短期間であり、 この課長講演の内容は、皇民化教育、軍国主義教育の内容を示している 「それでも従来の方針の基本は変わらない」という認識が教育 国の教育方針の転換などが相次いで発せられる中に 連合国軍 (進駐

0)

行政、学校双方において強かった事がわかる。

観にもとづいて行われるであろうという観測が持たれている。 的な戦争終結の方法であったかが強調されている。無条件降伏は、天皇を 頂点とする国体護持を守る為に必至だったのであり、 また、この教育課長の講演には、 無条件降伏というものがいかに新時代 今後の教育も皇国史

(噂話) 実際に当時社会の一部に広まった日本の軍事研究に対するひとつ が、課長講演の中に登場する 註

通じる考え方を感じる。 を感じさせるが、頭髪の種類が変わっただけで今日の校則や生徒心得にも の毛をのばすのは文化的か非文化的か」などという議論が出ており時代性 これらのあり方について、文化という観点から議論が行われている。「頭 さらに最後の座談会では、 礼の仕方や服装、 頭髪、道徳観など、今後の

は、 り、たいへん興味深い資料である。 いずれにしろ、この第一日目の懇談会と課長講演および座談会の内容 敗戦直後の教育現場の不安と困惑に満ちた状況を克明に記録してお

筆の楽譜が保存されている)。 後、札幌市立女学校、北海道第一高等師範学校 出城」氏(一九〇三一八二)は、東京音楽学校 本別町立本別中学校、北海道芽室高等学校などがある(本別中学校には直 よるものであり、その他にも十勝では帯広市立西小学校、同大正小学校、 校)で音楽教育に従事する傍ら、道内の小中高等学校の校歌を多数作曲し 第二日目の研究授業は音楽である。講師の千葉日出成氏、正しくは 浦幌町内では、旧常室小学校、 旧稲穂小学校の校歌が千葉氏の作曲に (現、東京芸術大学) 卒業 (現、北海道教育大学札幌 日

想いを世界へ訴えていく為に重要な手段になる可能性を主張しており、 特に作曲の劣化が著しい事を批判している。そうして戦後、 音楽全否定に対する批判が込められている。また、 ためにも音楽教育の重要性を説いているのがわかる。 講演の内容は音楽教育に対する技術的な話題が中心だが、戦争中の西洋 作詞と作曲を分離し、 音楽が日本の

資料紹介

昭和二十年度浦幌村教育研究会記録

持 田

誠(帯広百年記念館)

所在)を会場に開催された研究会の記録である。年三月三十一日廃校)と浦幌国民学校(現在の浦幌小学校。当時は宝町に月五日~六日にかけて、当時の常室国民学校(後の常室小学校…二〇〇五「昭和二十年度浦幌村教育研究会記録」は、一九四五(昭和二十)年十

いたとされる。

いたとされる。

か方研究会は、地域の学校関係者と地区の教育行政関係者、師範学校教育研究会は、地域の学校関係者と地区の教育行政関係者、師範学校教育研究会は、地域の学校関係者と地区の教育行政関係者、師範学校教育研究会は、地域の学校関係者と地区の教育行政関係者、師範学校教

現場の一断面が記録された史料として興味深い。失感と占領への大きな不安、社会変革への混乱の渦中にあった時代の教育人月の終戦詔勅から二ヶ月も経過していない頃のものであり、敗戦の喪

教育史的意義については、専門分野からの詳細な分析を待ちたい。とすると共に、内容に関して若干の解説、補足を行った。本資料に関する本報では、まず資料全文の活字化をはかり、今後の研究に供しやすい形

【資料の概要】

みで鉛筆書きされている(図1)。

資料はB4判二つ折りの「北海道十勝郡浦幌村」罫紙に、縦書き二段組

罫紙には硬筆でなぞった跡がある事から、記録資料として会員に配付するしていた町内の教職員によって書き留められたものと推察される。また、資料には記録者の所属、氏名等は記載されていないが、同研究会へ参加



ためにカーボン複写などがされたものと思われる。

当)である。
()の地名は国民学校の名称を示し、職名は訓導(今日の小学校教員に相要を知る事ができる。ここから読み取れる出席者は以下のとおりである。要を知る事ができる。ここから読み取れる出席者は以下のとおりである。だが、質疑や座談会の記録から大まかな出席者の概算頭に「出席人員」の欄があるが、空白となっており、正確な出席者の

幌)、畑中(浦幌)、上田(浦幌)、田尾(所属不明)山田(常盤)、伏見(浦幌、研究会長)、田村スエ(浦幌)、河野(浦幌)、熊谷(貴老路)、平岡(川流布)、塚田(炭砿)、岩佐(留真)、・伊藤(常室・学校長)・吉川(常室)、岩田(活平)、千葉(上浦